

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200266		
法人名	グループホーム キノシタ (有)		
事業所名	グループホーム すいせん		
所在地	三重県三重郡川越町大字高松203-2		
自己評価作成日		評価結果市町村提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200266&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として「笑顔・優しさ・家庭的な環境中家事や趣味を楽しみながら一人一人ニーズに合った快護(介護)を目指す」に掲げられているように介護するほうもされるほうも心地よい気持ちになるような介護を目指している。食事は日々とても大事なコミュニケーションを取ることの出来る時間であり、楽しみの一つなので色々工夫しながら料理を作っている。入居者様にも好評である。また嚙下の悪い方も楽しく味わって頂けるように刻んだり、ペーストにしたりまた盛り付けなども工夫している。職員も勤務年数の長い者が多く入居者様も家族の一員のようにお互いに信頼関係ができて安心した生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小学校の運動場のすぐ横にあり、遊び時間の子どものわいわい騒ぐ声が入居者の方の顔がそのときは先生の顔になるという。理念とおりの「笑顔」のある介護を目指し、入居者はもちろん家族からも頼りにされている管理者を中心に、「利用者と職員の和気あいあいなところが一番」と職員も自慢するくらい、一つの大きな家族を感じさせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも目に届くように申し送り時の部屋に掲げられている。介護されるほうもするほうも心地よい気持ちになるような介護(快護)を目指し地域に貢献するように実施している。	「ホームは職員にとっては職場だが、利用者にとっては生活の場である。その生活の場を乱してはいけない。笑顔の多い、介護でなく快護を目指す」として、理念そのものを会議のテーマとして議論し、具体的なケアに結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会などに参加したりして交流している。散歩時、すれ違った方たち(子供たちへも)に挨拶を交わす。	餅つき大会や敬老会等、地域の催物には、出来るだけ参加しているし、事業所の催物には、地域の人にも参加を呼びかけている。また「トイレ貸して」と入ってくるくらい、学校帰りの子どもたちとも仲良くしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のあと議事録を書きミーティングなどで職員一同が取り組みなど色々な情報を共有しサービスの向上に努力している。	大雨対策や新型インフルエンザ対応等、積極的な意見交換をしている。特にテーマに困っているわけではないが、3ヶ月に1回程度の開催になっている。	事業所のことを地域に知ってもらい、味方になっていただく最適の場であるので、ぜひ2ヶ月に1回は開催してほしい。また事業所として考えている会議、メンバーと利用者との交流も検討を進められることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、窓口へ相談へ行ったり、電話連絡など密に取り協力関係を築いて頂けるように努力している。	利用者の中に、権利擁護や生活保護の利用者もおられ、町担当者との情報連絡や連携は非常に密に取っており、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎朝の申し送りにて拘束をしないケアについて意見交換をしている。やむ負えない時には主治医・看護師・家族などと相談している。	事業所として拘束なしを基本としており、玄関の施錠等はしていない。しかし病気等でやむを得ないと判断した場合は、医師・看護師、家族と相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく申し送りにて確認して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護利用者4名、成年後見人1名が利用。職員一同が制度の把握、担当者との意見交換など制度を理解活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約説明書及び重要事項説明書に沿って詳しく時間をかけて説明し納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの要望や意見は朝礼・ミーティングやその都度話し合い職員全員で問題の改善に努めている。	自分の意見をはっきり言われる利用者も何人かおられるし、面会時の家族から要望や意見を頂いたり、面会の少ない家族には電話をかける等、意見・要望の聞き出しに努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングなどで意見や要望が出た時は全員で考え代表者や管理者へ提案している。話しやすい環境を心がけている。	ユニット会議や全体会議(代表も出席する)では、いつも予定の時間をオーバーしてしまうくらい意見が沢山出ており、その場でみんなでも検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングに参加し職員と意見交換をしたり勤務や休日の希望などに沿うように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や研修会など職員の希望、レベル向上のための参加、ほかの施設の職員との交流などにより情報の交換など職員が育っていくように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会・研修会などで他事業者との交流を行っている。また同じ会社だが地域が離れているため、それぞれの地域での特徴などの情報交換でサービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では本人、家族と十分話し合い本人の特徴を把握し本人にとって必要な介護や本人の希望など重点的に把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には十分な話し合いを行い、困っている事や不安な事、今後の希望など聞き安心して生活していただこう、お互いに協力し合って行くことを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様が必要としている支援を聞き施設での支援内容や他事業所のサービス内容、料金など説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のアセスメントを把握し残存機能を優先できないところを支援し、共存していることを職員全員が実践するように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が自由に訪問できるような環境づくりに努めている。また近況報告をしながら家族の希望や本人の希望など聞き支援に繋げて家族とともに支援していると協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた所へ出掛けたり、写真を撮ってきたり話を聞いたりして関係が途切れないように努めている。	利用者から希望を聴きだすことが大切と考えており、個々対応している。都合で本人が行けない場合等は、写真を撮ってきて話し合うときもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事後に仲のいい人たちが集まり楽しく過ごしている。その周りも影響されいい関係ができています。また衝突や孤立などがある場合は毎朝の申し送りで職員で話し合い交流が持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先や入院先に面会に行き様子を確認している。また担当の方と電話連絡などで様子を聞き相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員で把握し、新しい発見があった場合は必ず申し送りし実践し意見交換などを行い、ひとりひとりの希望に沿うようにしている。	普段の会話の時だけでなく、利用者と職員が1対1になれる散歩やお風呂のときにポロッと新しい発見がある。そのような時は会議等で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況や生活歴などは事前の話し合いで把握しその人に合ったサービスを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度、申し送りやミーティングや日々の日報などで把握し必要な事は連絡帳へ記載し閲覧するように出勤時の日課としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見を聞きユニット会議(毎月)で話し合い介護計画を作成している。及びモニタリングも一緒に行っている。	1人の職員が4~5人の利用者を担当し、関係者の意見も入れて計画案を作り、全体会議でみんなで確認し、計画作成している。また毎月全員をモニタリングし、3ヶ月ごとに見直しているし、変化時は随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員から利用者個々の問題点を日々観察記録や朝礼時に話し合い状況に応じて即時対応するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況においての支援の方法などに常に職員や家族、行政担当者などと相談し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し町や自治会主催の催し会などに参加したりボランティアによるレクリエーションを施設にて開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医を継続される方は今まで通りにしているが月2回提携医院の往診もある。夜間緊急時にも対応して頂いている。	入居契約時にかかりつけ医の話をし、利用者・家族の納得されるかかりつけ医としている。現在は内科については全員が往診のある協力医であるが、内科以外は各自の入居前からのかかりつけ医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週2回出勤し入居者の健康管理をしている。また24時間体制で職員との連携が取れているため常に適切な受診や看護体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際にはこまめに管理者や看護師・職員が様子を見に行き入院先のソーシャルワーカーなどと相談し情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の在り方」「重度化した場合における対応の係る指針」として書類を作成しかかりつけ医や施設の主治医・看護師・介護職員などと連携しミーティングをしている。	事業所ができる重度化・終末期対応について早い時期に説明し、希望があれば終末期対応を行う体制ができている。既に1人の看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者急変時、事故などの場合は看護師に連絡、看護師や職員から主治医へ連絡支持を受けられるように連携を取っている。看護師の週2回の勤務時に入居者の健康を相談し手当の方法や対応の相談支持を常に受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。また施設内には定期的に災害用食料、飲料、備品などを購入し万が一に備えている。また地域とは運営推進会議などで話し合っている。	今年の大雨のとき、事業所周りの水路の水が溢れ、怖い経験をしている。災害には強い関心を持ち、年2回の避難訓練は確実に行っている。	災害は何時起こるか分からず、夜間の職員一人の時には、地域の助けが必要になる。地域の方々の参加も得て、昼間だけでなく、夜間(夜間想定)の訓練もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては誓約書を書き全職員に守秘義務を徹底している。また一人一人の尊厳を大事にするように常に会議や朝礼で注意し心がけている。	一人ひとりの誇りやプライバシーには職員全員が気をつけているが、仲の良い人にはぼろっと内部事情を話してしまいがちで、そのようなことがないよう特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができよう話をよく傾聴するように職員全員で心掛けて、できるだけ希望に沿うようにし連絡帳にて情報を共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の過ごし方は入居者が決める姿勢を取っており職員が意思確認している。自己決定できない入居者に対しては個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理容で対応している。また洋服などもおしゃれに関心を持ってもらえるような声かけを行いその人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者・職員ともに楽しく食事ができるように準備や食事作りを心がけている。また嚥下困難な方や糖尿病の方などにもおいしく食べていただける様に工夫している。	食事担当の職員がおり、利用者の何人かが焼きそばを焼くのを手伝ったり、盛り付けたりしている。食事介助の必要な方の傍らでは、介助をしながら職員も一緒に食事をしている。「おいしいね」が繰り返される楽しい雰囲気のある食事時間である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容の記録、食事量の記録、水分摂取の把握をして一人一人に声かけしながら支援している。またそれにより脱水、便秘、下痢に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケアを行っており、入居者個々に合わせて口腔ケア用品を購入し活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々に合わせて可能な限りトイレにて排泄していただくように支援している。また排尿便チェックを常に行い主治医、看護師等と連携をとり排便のコントロールを行い習慣を生かし自立に向けて支援している。	入居前はリハビリパンツだった方を適切な誘導から布パンツに改善した例もあり、一人ひとりに合った誘導により、トイレでの自立排泄に向けた支援に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や内容、水分量、排泄の回数など毎日確認し主治医・看護師と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は可能な限り本人の希望に沿うように努めている。また時間も希望に対応している。また入浴できない方は清拭や足浴にて対応している。	基本的には毎日10:00～16:00の時間帯で入浴可能であり、本人の希望に合わせた入浴になっている。強い入浴拒否の方もおられ、「無理やりの入浴は虐待にならないか」の声もあり、検討もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思決定を重視しているが、夜間睡眠できるように日中運動やレクリエーションをしている。寝具も清潔を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は看護師より指導を受けている。また服薬がきちんとできているか最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には全員でお祝いし、その方の楽しみや好みに応じ料理を作ったり、ケーキを作ったりして全員で楽しんでいる。またお世話が好きな方は隣にお世話をしたい方に座っていただいたりいろいろ工夫しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、施設周辺の散歩や隣の小学生との交流など日々楽しんでいる。また施設の駐車場で食事やお茶などを行かない、近所の方との会話など楽しんでいる。	インフルエンザで外出の機会が少なかったが、天気の良い日は近所の散歩や通学途中の小学生との交流もある。またお寿司を食べに行ったり、個人的には宝くじを買いに行く方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護者が半数を占め、お金はデリケートな問題として取り扱っている。お金はすべて施設で管理しているが入居者の希望に応じて職員と一緒に買い物へ出掛ける時は自分でお金を払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしている。また手紙を書かれる方は職員とともに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み心地の良い建物であると思う。台所へも清潔のために台所専用のエプロンとスリッパを置いている。また季節の花を購入したり、職員が自宅から持ってきて入居者といけて飾り付け居心地よく生活していただけるように工夫している。	食堂兼居間は吹き抜けの高い天井で天窓があり明るいし、照明が間接になっているのでやさしい明るさになっている。利用者と一緒に作ったちぎり絵の大きな壁飾りがほぼ完成していたし、居室への廊下の壁も、落ち着いた飾り付けがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で会話が気兼ねなくできるように干渉しすぎず落ち着いた環境づくりに気をつけている。また畳のコーナーもあり座布団に座って話したりもできる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや好みものを置いて居心地よく過ごしていただいていると思う。またベットが嫌いな方には畳と布団を置いている。家族様が見えてもゆったりと過ごせる広さだと思う。	事業所のすぐ前を近鉄電車が通っているが、あまり振動を感じない。部屋はほとんどの方がベットであるが、畳利用の方もおられた。使い慣れた椅子や仏壇、テレビ等を持ち込まれたり、壁に写真や絵を貼ったりと自分なりの部屋作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどもドアに大きく提示してある。また日付は皆さんが目につくところに大きく提示してある。		